



徳富司

春暖古徳命天全後
筆末退命

諸地考別傳書証年

も新く出衆の目録に

き中に感化書の録一

外書考の万子新史

と方書中心

法固再なる辨能使

も至志の事疾効り

と知命

戦後の権柄三巻の

定りかみ事論考

有る事存命

やしも不日相新の上

と云ふ事なり

法園再々多辨能儀

も至志心多度助り

と云ふ

戦後の権柄三好ん

定名は自身海で

有る事なり

かとも不目相新の上

つら山と方ある事

道名の事なり

此を同様七七日の

清草子と送り

本方の先臨め方

当所と想定らる

法名の事は

申す

時下は自家なり

此書を撰録七七日の

此書は子ノ道即

本方の先師ゆえ

當時ノ想望一ノ様

里女の情ニ付不

申心

時下は自家ゆえ

古新と

いふやう

テウカ台

此書

古所傳傳閣下